

輸血用血液が逼迫！ 献血が足りません！！

 日本赤十字社 東京都赤十字血液センター
Japanese Red Cross Society



平時の
輸血用血液
在庫状況



現在、
輸血用血液
在庫逼迫！

テレビ朝日でも報道

https://news.tv-asahi.co.jp/news_society/articles/000199476.html

場所のご提供をお願い致します

報道機関 各位

参考:プレスリリース

令和2年11月16日

血液在庫量の減少に歯止めが利かず、 今後は輸血医療に支障が出る可能性があります (関東甲信越地域)

首都圏を中心とする関東甲信越地域の1都9県（茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県）においては、新型コロナウイルスの影響により、献血者が減少していることと、供給量が増加していることに伴い、参考①のとおり血液在庫量が減少し、輸血医療に支障を来す可能性が出て参りました。

輸血用血液製剤の安定供給を維持していくためには、血液型別に十分な在庫量を供給施設毎に保有する必要があります。関東甲信越地域には、22カ所の供給施設を配置しておりますが、十分な在庫量を分配出来ておらず、施設によっては大量発注が入り、一時的に僅かな在庫量となる状況が散見されております。

このような状況を踏まえ、先日、東京都からも参考②のとおり、献血協力を呼び掛けていただいております、千葉県からも参考③のとおり、県知事から献血協力を呼び掛けていただく事態にまで発展しているような状況です。

献血協力をお願いにかかる報道については、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、今年に入ってから何度も報道機関の皆様をお願いしているところで大変恐縮ではございますが、このような状況をご理解いただき、献血協力の必要性を広くお伝えいただきたく、特段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

なお、本件のように、安定供給に支障を来す可能性が出ている地域は関東甲信越地域のみであり、他の地域では、比較的安定した在庫量を保有出来ていることを申し添えます。

【参考①】

関東甲信越地域の厳しい在庫状況について：<https://www.bs.jrc.or.jp/ktkb/bbc/2020/11/4001-7.html>

○概要： 関東甲信越地域では9月以降、医療機関への赤血球製剤供給量が昨年度同時期を上回る実績で推移し、献血者の募集については日々の必要人数に達しない日が続いたことから、在庫の減少傾向が続いております。

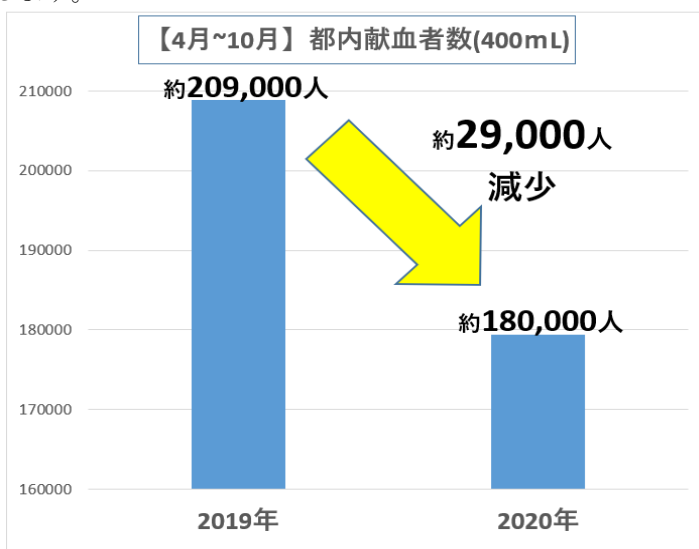
この影響で、10月以降は毎週末に安定供給に必要な在庫を維持できない状況となり、本日まで献血者募集強化のための様々な取り組みを繰り返してまいりましたが、在庫量の回復には至っておりません。

【参考②】

東京都による報道発表：<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2020/11/11/09.html>

○概要： 新型コロナウイルス感染症の影響で、大学や企業等による団体献血の実施が困難な状況が続き、4～10月の東京都内の献血者数（400ミリリットル献血）は、前年比で約29,000人（約14%）減少したことや、今後も、団体献血の実施は困難と見込まれ、寒さによる体調不良の増加やインフルエンザの流行等でさらなる献血者の減少が懸念されることから、東京都民の皆様にご協力の呼びかけをさせていただいております。

なお、減少した29,000人の400mL献血は、都内の医療機関で使用される同製剤の概ね1か月の量に相当します。



【参考③】

千葉県森田知事による定例記者会見での献血呼びかけ（11月12日）：

<https://www.youtube.com/watch?v=MvziLmhm4gg&list=PL0EZstJeMoA6op0wuvAhz5N1-owcd1JOF&index=1&t=532s>

※動画中6:45から献血を呼び掛ける内容となっております。

○概要：

全国では1日に約3,000人の患者さんが輸血治療を受けており、安定的な血液の供給には継続的な協力が必要ですが、冬から春にかけて、風邪などで体調を崩す方が多いことや企業や学校での献血協力が得られにくいことから、血液在庫が減少する傾向にあることを説明されております。

さらに今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、イベントの中止や延期、企業の在宅勤務の影響などで、献血会場の設置が困難となったことから、必要な血液の確保が厳しい見通しとなっており、千葉県民の皆様にご協力を呼び掛けていただいております。